

共生委員会ニュース

ともしび

2025 年度 第1号

2025 年 5 月

共生探究学習委員会



◎共生委員会ニュース「ともしび」とは

共生・探究学習委員会は平和や共生に関わる活動、修学旅行などを担当する教員の委員会です。高等部の3年間を通じ、同じ社会に共に暮らす様々な人々との関わりに目を向け、平和や共生の諸問題について考えていきましょう。

この共生委員会ニュースでは、様々な経験をする機会を得た生徒や教員の声を皆さんへお届けします。他の人の経験を共有し、深く考えるきっかけとして下さい。

スクールモットー「地の塩、世の光」

◎高等部の平和・共生教育

3 年間の流れ（24 年度）

修学旅行、毎日の礼拝、各教科の授業などで平和と共生について学び、『平和共生 LogBook』に足跡を残していきます。

1 年生 《平和共生論文》テーマ選定

【聖書】伝道週間で共生について考える 【生物】妊娠中の遺伝学的検査について考える

【英語】Playing the Enemy（アパルトヘイト撤廃後の南アフリカラグビーW杯）

2 年生 《平和共生論文》調査・アウトライン作成・執筆

【聖書】伝道週間で共生について考える 【現代文総合Ⅰ】長崎の原爆に関する作品

【歴史総合】太平洋戦争、アウシュビッツ収容所、原爆の歴史、ベトナム戦争

【公共】日本国憲法第9条、核兵器 【英語】Irena Sendler の人生を通して

【物理】原子力と核兵器 【修学旅行】被爆の歴史、キリシタン弾圧の歴史

3 年生 《平和共生論文》完成・読み合い等

【聖書】伝道週間で共生について考える 【英語】共生に関するテーマ

◆その他、グローバルウィーク、礼拝、自主学習グループの活動（フィリピン、宮古、東ティモール）など

◎高等部の平和・共生の訪問プログラム

今年度予定されているプログラム

高等部では、異なる環境に暮らす人々と交流することを通じて、社会の課題や共生社会について考えるプログラムを用意しています。ぜひ参加してみてください。

1. 東ティモールスタディツアー

長い内戦の歴史を持つ「21 世紀最初の独立国」東ティモール。この国の主産業の一つであるコーヒー生産農家を訪問し、フェアトレードのあり方について学びます。

訪問日程：2025 年 8 月 3 日（日）～ 8 月 9 日（土） 5 泊 7 日

予定金額：450,000 円程度

選考方法：申込用紙 & 申込作文による選考 ※図書館に取りに来てください

申込メ切：5 月 23 日（金） 作文提出

問合せ先：藤本（図書館）

2. 宮古訪問プログラム

2011 年の東日本大震災で被災した岩手県宮古市を訪問して、当時の被災した状況を見たり、防災への取り組みを学んだり、現地の方々と交流したりします。

訪問日程：8 月 5 日（火）～8 月 7 日（木） 2 泊 3 日

問合せ先：増田（地理歴史科）、高橋（体育科）、青木（数学科）

3. フィリピン訪問プログラム

高等部がクリスマス献金や文化祭の古本市の売り上げを通じて支援しているフィリピンの支援チャイルドに会いに行ったり、地域訪問したりする交流プログラムです。

訪問日程：3 月下旬予定

問合せ先：藤本（図書館）

◎高等部の自主学習団体

CLASSROOM へのご招待

高等部で活動している生徒の自主学習団体です。Classroom から参加してください。

1. BLUE PECO

クラスコード：angdzhk

2. フィリピンプロジェクト

クラスコード：v3dt2sc

◎報告：フィリピン訪問プログラム

プログラム参加者の渡航記

今年の3月20日～26日まで、フィリピン訪問プログラムが実施されました。高等部からは8名の生徒が参加し、支援チャイルドたちと豊かな交流の時を持つことができました。



3月20日～26日のフィリピンで過ごした7日間は私の人生の中で1番多くものを見て感じて、真剣に考えた期間でした。フィリピンの人たちはみんな優しく、スラム街を歩いている時も家から顔を出して挨拶をしてくれました。その反面センターの方々から聞いたフィリピンの現状には耳を塞ぎたくなるほどの辛いものも沢山ありました。

そんなフィリピンですが、チャイルド達と過ごした時間は私にとってかけがえのないものです。チャイルド達と会ったのはオーロラ州のサンルイスとマニラ湾付近の性質の大きく異なる2つの地域を訪れたときです。サンルイスはマニラからバスで6、7時間ほどかかる場所で、一言で言うと田舎です。マニラ首都圏で訪れた地域の方は所謂スラム地域で、衛生環境や治安の良くない地域です。遊んだ子たちの中には支援を受けている子はもちろん、その兄弟や支援を受けていない子もいました。私はチャイルド達と遊んでいる時、自然と笑顔になっていることに気づきました。ソーラン節を教えながら一緒に踊っている時、チャイルド達は知らないながらも見よう見まねで踊ってくれました。キャンプファイアーをみんなで囲み、歌を歌いながら手を繋いで揺れている時間は、みんなが一つになったような気がしました。そんな時のチャイルド達の楽しそうな笑顔を見ていると、私も嬉しくて笑顔になっていました。これは笑顔の連鎖によるものなのだと私は思います。私がチャイルド達と楽しい時間を過ごしたいと思っているのと同時に、チャイルド達も私と似たようなことを考えていてくれたのではと思っています。互いに相手のことを想い、一緒に遊んだり時間を共有することによって、楽しいという感情や笑顔が生まれ、それが連鎖していったのだと考えています。私はそんなチャイルド達がずっと元気で笑顔でいてくれることを望んでいます。そしてそのためにもっとフィリピンについて沢山学び、より多くの人々に今のフィリピンの現状を知ってもらいたいと考えています。

また、私はこのプログラムを通して何のために支援をするのだろうということを考えました。例の一つとして家族を養うために働き、学校へ行くことのできなかった子供達が学校に行けるようにするために支援をするのだというのがあると思います。支援を受けて学校に行ったことによって沢山のことを知り、自分の世界が広がったということがあると思います。けれど

も自分の世界が広がったことによって苦しんだり、手の届かない憧れを抱き、悲しくなることがあるかもしれない。ならば支援を受ける前の何も知らない狭い世界のままでいた方がチャイルド達にとって幸せなのではないかという疑問が出てきました。それでも支援をするのはチャイルド達に選択肢があることを知ってもらい、自分の手で選ぶことができるようになるのだと思います。サンルイスでは学校の先生をしている元支援チャイルドの方のお話を聞きました。その先生は支援を受けたことによって自分の世界が広がり、夢ができたんだとお話ししてくれました。そして次は自分がサポートをする側になるために先生になったとも話してくれました。この先生が何で先生になったのかを聞き、チャイルド達にとって選択肢があること、夢があること、自分の手でそれを選ぶこと、そしてそれに向かって行動できることがとても大きなことなのだと知りました。決められた、選ばざるをえない道ではなく、自分で選び取った未来ならば結果がどうであれ自分の中で良かったと思えるのだと思います。そして選択肢があり、自分で選べるということが一つの幸せの形であるのだとも思います。私はチャイルド達がその幸せを掴めるようにこれからも支援をしたいと考えています。

3 年 辻本 美波

◎「山の手空襲を語り継ぐ集い」

山の手空襲を語り継ぐー音楽と朗読の集いのご案内

アジア太平洋戦争の末期、広島、長崎への原子爆弾投下だけでなく、日本全土への空爆が繰り返された。しかし、国際社会の多くはこれを「戦争終結の手段」として黙認した。なぜならば、それに先立つ 1938 年から 1943 年にかけて、日本軍は中国の重慶に繰り返し空爆を実施し、多くの民間人犠牲者を出していたからである。

1945 年 3 月 10 日未明、米軍は東京の下町地域を対象に大規模な空襲を行い、およそ 10 万人の死者を出した。続いて、5 月 24 日夜から 25 日にかけては、いわゆる「山の手空襲」が行われ、赤坂、麻布、青山、渋谷などが主な標的となった。25 日午後 10 時半ごろから約 2 時間にわたり、約 500 機の B-29 爆撃機が飛来し、焼夷弾約 3,200 トンおよび爆弾数トンを投下した。公式記録によれば、約 3,600 人が犠牲となった。焼夷弾の集中投下により広範囲で延焼が発生し、表参道交差点付近でも激しい火災が発生した。一部地域では火災が竜巻状に燃え広がる「火災旋風」と呼ばれる現象が生じ、多くの人々が避難の間もなく命を落とした。

戦後 60 年を経て、空襲の体験記集が編まれ、この地に「山の手空襲」を追悼する碑が建てられた。近年、空襲体験者や遺族、道行く人にも呼びかけて、献花が行われている。戦後 80 年となる今年も実施される。また、2016 年から始められた「山の手空襲を語り継ぐ集い」には高等部生徒会と放送部が司会と体験記の朗読を毎年担当している。

1. 献花 2025 年 5 月 25 日（日）午後 1 時 30 分～3 時 30 分 表参道交差点の追悼碑前

2. 集い「山の手空襲を語り継ぐー音楽と朗読の集い」7 月 13 日（日）12:30～

会場 : 港区立青南小学校体育館

問合せ先: 増田（地理歴史科）